

節目に一言

還暦を迎えて

その後の人生

赤間 政志

(昭和53年電気科卒)



5年前の同会報、第22号へ『新幹事になって』を寄稿させていただき、その文末には『明確な目標も無い俤(まま)で当会幹事をお引き受けしました。定年迄5年の現役ゆえ、どの程度お役に立てるものか判りませんが、定年後の健康維持活動やライフワークの準備期間と考えて、少々、フライング気味でのスタートとなってしまいました。』と記しました。

この5年の小生の成り行き、更には、これからの人生について思いを馳せ、以下に綴ってみたいと思います。

【母の世界】

平成25年7月、母が82歳で他界しました。2歳年上の姉と4歳年下の妹に挟まれた自分が男一人で大事に育てられた事に漸く気が付き、『孝行をしたい時には、親は無し』未だに後悔しています。

【人事異動】

平成29年6月1日付けの社命により、社内事業部門(ビジネスユニット)間での異動があり、勤務地が茨城県土浦市から日上市へ変更になり、徒歩通勤から往復3時間余の電車通勤に応じる事となりました。電車通勤は心身ともに問題無く対応してはみたものの、通勤時間に無駄な思いを痛感し、勤務地近傍への単身赴任の決意に至り、現在も継続中です。

これにより、都心まで往復6時間の遠地から東京秋工会役員会への各種行事等への参席が難しい状況となり、本会諸活動への参画を暫く休止させて頂くべく、当会役員各位へお願い致しました。

【父の介護】

平成25年7月、母が他界した直後から、今年で孕寿を迎える父が認知症を発症し、時間の経過と共に徐々に症状が悪化し、現在『要介護2』の介護判定の状況であり、小生が不在と云う生活環境のために、自宅(茨城県土浦市)での介護を介護士や医療専門スタッフの力を借りながらも家内をお願いしています、家内自身も決して丈夫な身体ではないので、父との共倒れを常に心配しながら経過を見守る状況が続いています。

【長期出張】

前年6月1日付けでの移動時、直近の設計者としての生業に疑問を抱き、保有している技術系資格を活かして現地工事管理の仕事への転身に応じ、平成30年1月～平成31年3月までの15箇月間、北海道札幌市への長期出張に対応しました。上下水道処理に関わる水環境設備システムの更新工事に関わる監理技術者としての現場常駐です。

在任中は、台風21号の襲来や平成30年北海道胆振東部地震発生等、自然災害の対応に悩まされながらも無事にプロジェクトを完遂させて、我々市民の生活に密接な水環境インフラ設備の仕事に関わる事が出来て、人の役に立つ仕事に従事できたと大いなる充実感を抱いています。

【これからの人生】

本年8月末日で定年を迎えます。5年前には、定年後は即時、現役を引退して悠々自適の生活を夢見ていたにもかかわらず、会社からの要請もあり、定年後も継続雇用で現業の現地施工管理業務を続け

ることが決まり、長期出張業務と帰社後の事務処理業務に任じることになりそうです。近年の風潮なのか、冗談なのか、上層部との会話では、もう10年勤めて貰わないと困るとの発言をされています。直近では、令和2年3月迄の京都府京都市への長期出張に対応します。

以上、取り留めの無いことを書き綴りましたが、書き切れなかった良かった事柄も含めて人生色々、何が起こるか予測が付きません。思い描く構図が旨く描き切れないのが人生と考え、どんな境遇に遭っても、ありのままの状況を率直に受け入れ、身に振りかかる全ての事柄をポジティブに活かして誠実に正面を向いて生きていこうと思っています。

現役引退と諸般の足枷を外せることができた暁には、当会ハイキング同好会の山行きへの積極的な参画を復活すること、並びに、当会役員幹事の諸活動を休止せざるを得ない状況になって誠に申し訳なく思っている当会役員幹事方々へのお詫びの意味を込めて、当会役員幹事の活動へ復帰することに真摯な対応をさせていただきますので引き続き、宜しくお願い致します。



本会主催の秩父丸山ハイキングに妻と参加(2017年6月)



21世紀の街づくり、基礎は当社が造ります。

近未来都市計画にのっとった、超高層ビル工事に各種鉄筋工事を提供いたしました。
建築史に残るビル造り、当社は建築文化の基礎を築いてまいります。

矢島鉄筋工業株式会社

代表取締役社長 矢島 孝夫

代表取締役会長 館岡 正一 (昭和43年建築科卒)

【本社・東京工場】

〒131-0043 東京都墨田区立花5-12-5

TEL: 03-3619-9111

FAX: 03-3619-9117